

スズキ氏の回想 1

会社帰り、バスの座席に紙切が挟んであるのを見つける。

真知子の友人とその許婚 1

その子は詩人で、名を岩崎真知子というのだけど、貴方知ってる？ 知らないわよね、あたしだつて幼なじみでなけりゃ、知らなかつたと思つもの。

母親同士、学生時分から親友でね、だからという訳でもないだろうけど、結婚後も御近所だつたから、学校に上がる前から、自然あたしたち友達。中学の終りまでは何をするにも一緒。それから後は学校が離れたから、……彼女はうちの界限じゃあチヨイト名の知れた進学校へ進んでつたのよ、あたしは……御存知の通り、松竹梅で言つたら竹の竹もよい所。どうせドの字のマンナカよオ。

で、あたしが短大の家政科にヤットコサ潜り込んだなんて喜んでる所、彼女はあつさり有名私立大学に合格。ところが勿体無い事に、それを途中で止しちゃつたのさ……というのも彼女、二十歳前後から引きこもりでね。爾来会つのは専らアチラさんの宅……と引きこもりというのが、元來の出不精が高じたとても言うのかしら、だから対人恐怖なんかの気は無いらしいの、何より外出の際の、洋服のコーディネート考えたりすんのが億劫になつたなんちう言種。

彼女ツたら、そりゃあ美人なんだけど……幼なじみの欲目ばかりじゃないわ、本当よ、

大層キレイよ、でもマルツキリ飾り気ちうのが無いんだわ。着る物だけでない、部屋の
中にしたって、小奇麗に片付いちゃいるけど、それというのは小物だとか装飾品が全然
無いから、詰まる所は殺風景。

でそんな時分、投稿した詩がどっかの雑誌で取り上げられたんですってさア……名前
は忘れたけど、その筋では何だか権威のある、知らぬ者の無い雑誌なんですって。折角
出来たモンほっぽつとくのも何だか惜しいから、位の気持で送ってみた所、気に入って
くれた編集さんが居たとか。うん、心の奥底はどうだか知らないけど、特にはしゃぐ様
子も鼻に引つ掛けた様子もなく恬淡と言つてたわよ。

渡りに船であるとは言つて憚らなかつた。丁度学校に行くのなんか面倒になつていた
から、詩に専念するという口実で退めやすくなるつて。彼女の母親というのもコレマタ
ちと風変りで……イイエ、姿形はサスガ真知子の母親、そりゃあ艶やかだつたわよ、参
観日なんかではモウひとり勝ちといった風情でねエ、他の同級生たちは大層羨ましがつ
たもんだつた……じゃあどこが風変りつて、いざ問われると難しいけど……一口に言え
ば過保護、妙齡の娘つかまえて、幼児にするよな声色声音、マツチャンマツチャンつて
猫っかわいがり。

かと言つて、他人様に自慢話ばかりする訳でもないんだからコレがややっこしい所……
……どちらかと言えばけなしつぱなし。例えばウチの母親がマツチャンは出来るから、な
んて何の気無しに言つてしまったとするでしょう、すると嵐の如く真知子の駄目な所を
列挙し出すのよ、イヤイヤこの子つたら、どうしようも無いのよ引つ込み思案だし、字

は下手だし、不器用だし、いつでも呆つとしておつて、家の事は何も手伝わず、仏頂面して本ばかり読んでいる根暗、将来が危ぶまれる……なぞとココぞとばかりコキオロス。

あの凄まじさは、ケンソンなんて言葉じゃ片付けられない。この人、娘のアラ捜しが趣味なんじゃあないかって、子供心にも疑えちゃう位なのよ……。

そういうのを繰返し傍で聞いておつた所為なのか、もともと素養があつて母親が見抜いておつたのか、そこまではわからなただけれど、そうでもなかった所までが、母親の言う通りになつて……。

でも少なくとも母親が、その真知子の駄目な所ちうのを、何だか嬉しそうにアゲツラツテおつたのは確か……。まるでそうであつて欲しいって感じてね。恐らくそうなんだわ。あんたは駄目ねエ、駄目ね、あたしが居ないと、つてな歪んだ可愛がり方じゃなかつたかと思われる……。

そんな調子だから、マ、手放して喜びやあしなかつたらうけど……仕方ないわねエ、あんたつて子は、ヤツパリ、などチョイト小言を言う位で、真知子にしてみりゃトントン拍子といった具合で大学中退の運びになつたんじゃないかしら。

……ウウン、暗いとかじゃないのよ。一言ではとても言い尽せないわ。もともと明るいとかが元氣とかいふ言葉には程遠く、霸氣が無いっちゃあ無い、けどべらぼうに陰気なのはチト趣が違うのよ。

学生の時なんか、29歳のクリスマスはあたしたちキットふたりで過しましよ、なんて約束したものよ……ホホホ、当時チョイトと流行つたじゃないのさ、そんなテレビド

ラマが……。ええ、今となつちやあそんな約束、あたしにとつたつて恥だアね……。あたしには子供じみた、真知子にとつては俗っぱすぎる思い出。

……そうね、あの頃にやあ随分遠い未来の事であつたけど、もう数年先まで迫つて来るのねエ……。何言つてんのよ、貴方と過すに決つてるわよ。過すも何もその頃はモウあたしたち、トックに一つ屋根の下じゃないさ。ふふ……。アアそうよね、離婚していなければの話だけどね。

そうそう、俗っぽいとかそういうことなのよ。何がってさっきの、明るい暗いの話。彼女大人になるというより、どんどん浮世離れしていつてる風なのよ。あたしに接する態度なんかは昔とそう変りやしないわ。だけれどたまに、何か喋りながら目がぼんやりなつていたりする。焦点が合っていないような感じ。自分の言葉言つた端から反芻しているような。それでいてまるきり話す事柄に関心が無いような。

でも何せ詩人ですから。いつでももぴんとくる言葉なぞ探すよう心がけているのかもしれない。それが傍目には、異様に呆けた形相と映るのやもしれぬ。

スズキ氏の回想 2

四つ折にされてた紙切開いてみたら、キレイとは言えないが丁寧さ伺える文字で次の文章が記されていた。

これをお読みになった方

貴方がもしも×年×月×日13時、お手隙でありましたら、下記の住所

まで、小ぶりで、甘そうな桃を、5・6個届けて下さいませんかでしょうか。

それほど大した額ではありませんが、謝礼の用意あります。御親切な貴方、お見えになってくれることを、切に、切に願っております。

×市×番地 岩崎真知子

真知子の友人とその許婚²

そうそう、でこつからが本題なんだけど、この前その真知子の家に行ったら誰が居たと思う？ 営業三課のスズキ氏……そうよ、あのちょっと前出し抜けに辞表出した人。その後どうしてるかなんて噂にもものぼらないじゃない。あたしも親しい方じゃなかったからすっかり忘れてたけど、それが久々行った幼なじみの家に居候しているっていうんですもの。驚きだよ。

ええ、あんまりビックリしたから思わず話しかけちゃったわよ。でもアチラさんに特別慌てたり騒いだりする様子はなかったわね。逆に堂々としたもんで。会社に居った頃

あたしが抱いていたイメージとは少し感じが違ったわ。よく知らないのにこう言うのも
なんだけど……。どことなし出世だとかに縁遠い、シヨボクレた、ウダツの上がらぬ中年
って気がしていたわ……。え、その通り？ 車の運転も下手だし？ いいじゃない別に
そんなの、あたしだってペーパー・ドライバーだわよ……。ま、不動産営業で車が無いと
なると、そりゃあちよつと使えない社員なんだろうけどねエ……。

じゃキット辞めてよかつたのね。とにかくまア、あの自信なさ気な雰囲気はスツカリ
払拭されていた感じだもの。不動産に居たスズキさんですか、て訊いたら、そうで
すけど、貴女は、ああ、アア事務の、なんて八キ八キ答えて。顔つきだつてきりつとし
て若返つていたようよ、まともから見たら、男盛りの年頃の、存外にイイ男ぶり……。ア
ラ馬鹿、何を妬くことがあんのよ。ただ、面喰つたマンマのこつちの方がしどもどしち
やつたつて事を言いたい訳よあたしは。

うん、で、今はその真知子の付き人のようなことをしているつて言つてたわよ。でも
詩人の付き人つて一体何をするのかしら……。アラやだそんな、いやらしい……。まアで
もそうなのかもしれないわよねエ。だとしたつて別に構やしないけど。幼なじみだから
つて、色恋沙汰にまで口出しする権利はないわ。

心配は心配よ。スズキ氏が何考えてるんだかよくわからないし。彼女少し前まで母親
と……。先の話の、チヨイト風変わりちう……。母親と、二人暮りしたんだけど、ええ、父
親は小学生の頃に亡くなったのよ、あたしお葬式行ったの覚えてるわ。一人っ子だから、
爾来母親と二人きり暮してきたのだけど、そのお母さんも実は半年前位亡くなつてしま

つてねエ。今じゃ天涯孤独の身よ。だからあたし、なるべく親身になつてやろうとは思つてるんだけど。でもいつくら甘やかされて育つたからつて、いい加減分別はつく年でしよう。スズキ氏の事にしたつて、自分で選んで雇つた訳だしねエ。彼が無理やり居座つてるつてエ訳じゃないんだもの……。

でも彼女が弱つてゐるのにつけこんで、財産でも狙つてるなら話は別よ。そうとなつたらあたし黙つちやいない。せめて一言なりとも彼女に忠告するわ。そんなあざとい奴はおよしなさいつて。でもまあ大丈夫と思ふんだけど。ほんと彼氏、お手伝いさんに徹してゐる風だつたからね。何しろエプロンつけてお茶出してくれる位だから。そう、だからきつと付き人というより家政夫なのだわ。下心があるような奴を見抜けないほど彼女も馬鹿ではない筈だし。

財産？ うん、そんな詳しいことはわかんないわよ……でも相当あるんじゃないかしら……。そうじゃなきゃ詩人なんてやつてられないでしょうこの御時世で。父親？ 知らないわよ、サラリーマンじゃない……。母親は働いてなかつたわよ、お父さんの死後も……。ああもうしつっこいわね、他人の家の事情をそう根掘り葉掘り訊くもんじゃないわよイヤラシイ、ううん、ウン……。じゃあここだけの話よ、彼女のお父さん、どうやら交通事故で亡くなつたらしいのよ。車に轢かれたらしいのね。それでおおよそ察しがつくでしょう。いろいろ差引いたつて、よほど派手な振舞いしなきゃあ、暮しには困らないんじゃない……。

ところで貴方会いたい？ スズキ氏に……。呑みに行つたことがある？ え、入社し

たての頃に彼氏から仕事を教わったですって……。知らなかったわ。あたし貴方の方が先輩かと思っていた……。フウン違うわよ、怒らないでよ、アアタが老けてるって意味じゃないのよ……。あたしあの人、中途採用かと思っていたのよ。だからチットモ契約が取れないのかと……。フウン、確かに貴方はやり手だわ。じゃスズキ氏なんかスグに追い抜いてしまったという訳だったのね……。

じゃ、呑みに行つたつうのも、その初めの頃の事なの……。フウン、あたしが入社するずっと前の話ね。誘つてきた割に何も話さない？ 変つた人だわね。それでずっと黙つてたの？ ああ、貴方ひとりでよく喋るものね。それでアチラさんはむつつり押し黙つたまま？ 相槌打つてるだけ。フウン……。じゃ特別会いたって事もなさそうね。

え、でも会いたい？ 何で。話の種になる？ うん……。ま、怒りやしないだろうけどさ、誰だつて、会いたかつたつて言われれば。でも何だか……。貴方ひやかしめいた態度とりそう……。物珍し気にじろじろ見たりとか、突つ込んだ話に持ち込むだとか……。だつて念押しとかないとやりそうなんだもの貴方……。その場の空気くらい読めるって？ そりゃそうしてもらわなきゃ。何せ貴方、半年後にはお父さんなんですもの、いつまでもお調子者つてだけじゃあ困ります。

まあ一度真知子に会つてもらおうかなとも思つてた所だし……。だから大丈夫、ひどく陰気な訳じゃないんだから。うん、フウン、じゃあ今度の休みにでも。

スズキ氏の回想 3

指定された日時に訪ねると、扉開けたのは中年の女で。と、一口に中年と言つても侮るなかれ。見る者を眩ますような素晴らしい白肌、それは水水として滴でも滴りそう、切れ長の目ばかりでなく全身きゅつと吊上がった印象は、凡そ長い髪をひつつめ髪にしておる所為、だが、もしかつむじの辺りで余分な皮一括り括つたのだと言われたら……アチラさん冗談のつもりでも、道理で、と頷いてしまつやも知れぬ。

現に目の前に居るのは洋装だが、そのタツタ今の今まで人の生血を嘔つておつたかのような赤々とした唇と同色の、和服姿をつい想見。

「あらまあどうも。スズキさんつて仰るの……アラやだ違いますほほほ。私は母親ですわ。真知子、真知子」

一見険のある、真夜中の花といった風情の妖美人であつたのが、口を開けば存外に気さくそうで。

と、音もなく階段おりてきた袖無しワンピース姿これこそが真知子、ほつと息をついたのも束の間、またぞろ同じ位の美に当てられるとなると、これはもう殆ど脅威と云えて。

別嬪は言うまでもないが、母親とはまた違った目鼻立ちで、こちらはくりくりと愛らしい印象である。が、鶴色寄りの白肌は受け継いでいるし、何所となし、ぱつと見の母親のと同じ不健全な色香をも湛えている。

肩の上で潔く断髪したおかつぱ、楚々と笑う様は優婉、しかしその実、艶やかな黒髪

に紛らし、飯食わぬ女房さながら……人面痘でも隠し持っていそうな、けんのん、けんのんな気配がある。

さ、どうぞ二階へ……と動いた手弱女の唇に慄く。どうという言葉ではないのに何故にギックリさせられたか。紅さした如き艶々となった唇が余りに形よく整っておったので……お人形さんが出し抜けに喋り出したかのような、違和感を覚えさせられた由。

断髪の娘に連れられて、何だか夢の中にて雲を踏むようなふわふわした心持で階段上がる。と、部屋に入るなり、アチラさん俄然ソワソワし出し、顔つきはまるで迷子のそれ。

とやがて、どうにもじつとして居難いと言わんばかり、独楽の如くのきりきり舞い。髪の漆黒緋の唇、鬱金の裳裾に臙白、卍巴と視界を飛交い。拳句の果てに目エ回し、私の腰にプルプルむしゃぶりつく始末。

「あ、あの例の、あの」
ひゅうひゅう喉を鳴らしている。

「そうです、そうです、バスの中で置手紙を拝見しました」
「ハ、早く、早く」

鞆から取り出した桃、渡す間もなくひったくられ、面喰って見ていると、ピニルや包装もどかし気に剥ぎ取り、手が汚れるのもお構いなし、皮も遮二無二剥いてがつつき出した。

もの言わぬ空間で、響くのは真知子の桃を咀嚼する音ばかり、きれいな唇指や顎、桃

のかすと汁とにまみれゆく様そうしてそんな事アまるで気にも留めぬといった風情一心不乱に桃食う女、さすがに後頭部に口、ではないものの、じわじわとした恐れを覚えさせられ。

かといつて目を背ける訳でなく、寧ろ見ていたいと思う、あんまり無心にかつこんでいると下品な印象を与えないものだを知る、否それはこの女が為か。恐ろしくとも怪しくとも、美しさ半減して見えることはない。何をどうしようかと美を際立たす化粧。それは本人が望む望まないに関らず、自然の道理みたように為される生まれながらの性質であらう。

つまりは、訳わからずおぞつとさせられながらも見とれざるを得なかつた、得体の知れぬ美女の、無邪気な、大いなる食いぶりに。